

空土ファーム生きもの調査 6月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するのか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法

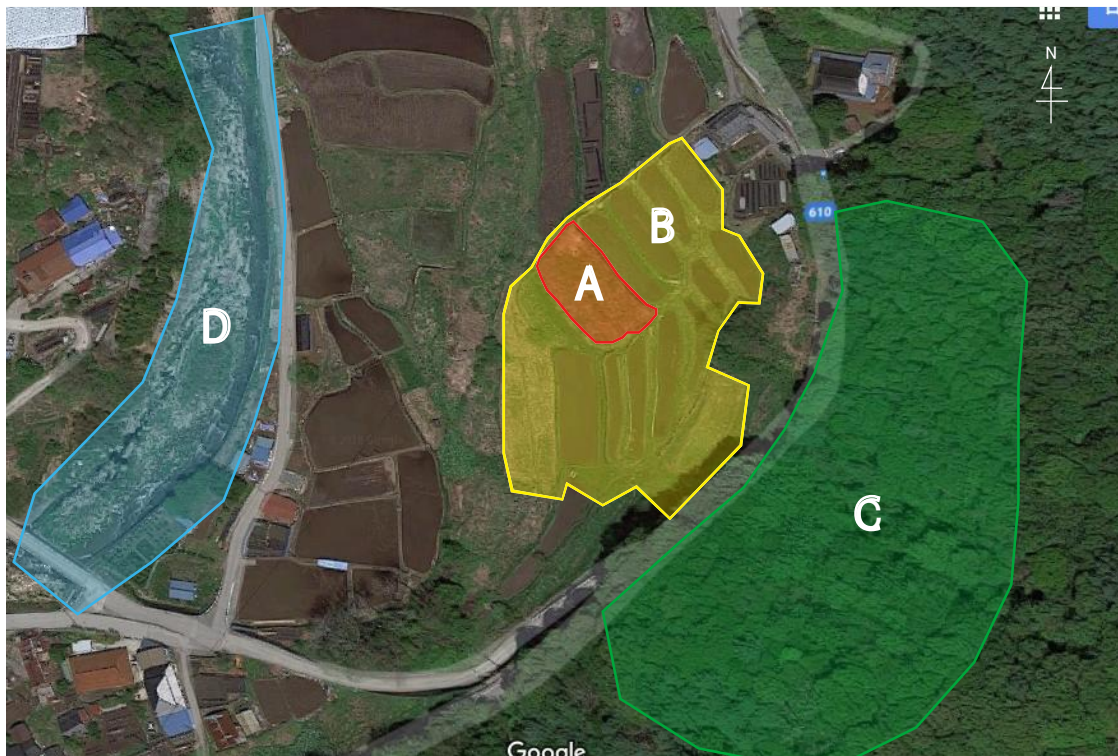
①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

なお、今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2018年6月28日 10:00~16:00



A地点 2枚の新規耕作田)



B地点 棚田全体)



C地点 雑木林と水路)



D地点 塩川)

図-1 調査地全景および調査地点

2. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

モートンイトトンボ (B 地点) : 里山の荒廃とともに減りつつあるチョウ

モートンイトトンボは、湿地や湿田を好むイトトンボの仲間で、全国各地で見られました。しかし、各地で田んぼの放棄地が増えるなどして、生息環境が減少したため、全国で減少しています。そのため、環境省のレッドリストで「準絶滅危惧種」に指定されています。ただ、無農薬の水田には発生することが多いとされており、農薬を使用していない空土ファームでは複数のモートンイトトンボを確認することができました。



田んぼ周辺で見られたモートンイトトンボ(オス)

2) 各調査地で見られた生きものたち



オオヤマカワゲラ (D 地点)

塩川に架かる橋の上で見られました。幼虫期は川の中の石の下などに潜み、小昆虫を食べます。



交尾中のツバメシジミ (D 地点)

関東でも普通に見られるチョウの仲間です。シロツメクサなどのマメ科の植物に産卵します。



アサマイチモンジチョウ (D 地点)

明るい樹林環境を好むため、里山環境が荒廃し、森が暗くなると見られなくなります。



ヒメシジミ (D 地点)

草地環境を好みますが、全国的な草地の消失により、個体数は減少しています。

※環境省 RL 準絶滅危惧種



キアゲハ幼虫 (B 地点)

湿地に生息するセリを食べます。セリが刈り残された B 地点で見られました。



セマダラコガネ (D 地点)

植物の花や葉を食べます。ほぼ全国で見ることができます。



ニホンアマガエル (A,B,C,D 地点)

繁殖期になると田んぼに集まり、産卵を行います。繁殖期以外は草や木の上で生活します。



シュレーゲルアオガエル (C 地点)

樹林地や田んぼのそばなどで見られます。田んぼの畔などに、泡に包まれた卵塊を生み落とします。



アズマヒキガエル (B 地点)

夜行性のカエルで、夜になると様々な小昆虫をとらえて食べます。



ムシトリナadeshiko (D 地点)

茎の一部から粘液を出し、そこに虫がくっついてしまうのでこの名がつけました。

3) 空土★生きものコラム ～壮絶な子育てをするコブハサミムシ～

6月の生きもの調査では、田んぼの周辺や川沿いなどで、植物の上にコブハサミムシがとまっている姿をよく見かけました。コブハサミムシは山地でよく見られるハサミムシの仲間ですが、子育て方法が変わっています。メスは冬になると石の下などで産卵を行い、単独で卵を保護します。そして春頃になると卵が孵化します。メスはしばらくの間、産まれたばかりの子どもたちを外敵から守っていますが、孵化から数日すると、思いもよらぬことが起きます。何と幼虫たちが母親を食べはじめます。この行動の理由としては、



コブハサミムシ (B,C 地点)

まだ食べ物が少ない春先に、子どもたちに確実に栄養を与えるための行動だと思われませんが、我々人間からしてみると、壮絶なまでの母性愛、もしくは合理性を感じます。道端で普通に見られるコブハサミムシでも、実はこのような面白い生態を持っているのです。

3. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	トキワハゼ	○			
A	シロツメクサ	○			
A	セイヨウタンポポ	○、Fr			
B	スズメノテッポウ	○			
B	トキワハゼ	○			
B	シロツメクサ	○			
B	セイヨウタンポポ	○、Fr			
C	フタリシズカ	Fr			
C	タツナミソウ属の一種	○			
C	ヘビイチゴ	Fr			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	シロツメクサ	○			
D	ヒメジョオン	○			
D	クサノオウ	○			
D	ミドリハコベ	○			
D	カラスビシャク	○			
D	オオイヌノフグリ	○、Fr			
D	ヨウシュヤマゴボウ	△			
D	イネ科の一種	Fr			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	アブラチャン	Fr			
C	ニガイチゴ	Fr			
C	クリ	○			
C	ヤマアジサイ	○			
D	ヤマグワ	Fr			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	モズ	c			
B	ヒヨドリ	c			
B	ツバメ	fl			
C	ヒヨドリ	c			
C	イカル	c			
C	キビタキ	s			
C	センダイムシクイ	s			
C	アオバト	s			
C	シジュウカラ	c			
D	カワセミ	c			
D	ツバメ	fl			

v:目視 c:地鳴き s:さえざり fl:飛翔 fd:採餌

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	マメゲンゴロウ				
A	ホソミオツネトンボ				
A	ガムシ科の一種				
A	マツモムシ	幼虫			
B	マツモムシ	幼虫			
B	ヤスマツアメンボ				
B	ホソミオツネトンボ				
B	モートンイトトンボ			絶滅危惧 I B類 (EN)	準絶滅危惧 (NT)
B	ヒメウラナミジャノメ				
B	コブハサミムシ				
B	キアゲハ	幼虫			
B	カラスアゲハ				
B	ヒメゲンゴロウ				
B	セスジスズメ	幼虫			
B	シータテハ				
B	テングチョウ				
C	キクビアオハムシ				
C	コブハサミムシ				
C	ナミテントウ				
C	キバネセセリ				
D	モンシロチョウ				
D	モンキチョウ				
D	オオヤマカワゲラ				
D	ミヤマカワトンボ				
D	ツバメシジミ				
D	セイヨウミツバチ				
D	ルリシジミ				
D	オツネトンボ				
D	セマダラコガネ				
D	ウラギンシジミ				
D	オバボタル				
D	アサマイチモンジチョウ				
D	コムスジ				
D	オオスズメバチ				
D	ビロードコガネ				
D	ナナホシテントウ				
D	ハネナガフキバッタ				
D	ホソミオツネトンボ				
D	ツマキヘリカメムシ				
D	シオカラトンボ				
D	オバボタル				
D	ヒメシジミ本州・九州亜種			絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
c	ニホンジカ	足跡			

表. 調査地内で見られた生物種(爬虫類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ヤマアカガエル				
A	ニホンアマガエル				
B	ヤマアカガエル				
B	ニホンアマガエル				
C	ヤマアカガエル				
C	シュレーゲルアオガエル				